

こどもは、長女、長男、次男の三人。二歳刻みです。一番下の子が高校二年生の時までPTA活動をやりました。同時に支部活動もしながら。

うちの子に言わせると「家にいなくて専業主婦と言ってるんじゃないか」だそうです。そう言われるくらい、こどもが小さい頃からずっと、忙しくしていました。主婦でもやれるんだ、という感じで。



吉岡美智子議員
二〇〇一年から大分市議。
現在三期目、公明党所属。

女性市議にインタビュー

大分市の政策を決定する重要な場である大分市議会。
議員46人のうち女性 はわずかに2人です。
そのお2人に議員になったきっかけやエピソード、
市政への思いなど熱く語っていただきました。

議員になったきっかけは、「女性の立場で社会に貢献してもらえないか」とのお話を頂き、立候補しました。一生に一回の人生。力は無くとも、自分にできることがあれば、何かで役に立てれば、それはありがたいことです。「これからは女性の時代だからがんばりなさい」と夫は言ってくれました。自由にのびのびとやっていられるのは夫のおかげかもしれません。心を許して話ができる存在です。

男女関係なく、ひとりの人として

高校の時、生徒会の副会長に立候補し、今思えば初めての選挙運動をしました。記憶が定かではありませんが、私たちの前年から女性が副会長に入るようになったような気がします。当時、女性が副会長になるのも難しいのかな…と感じましたね。

今の学校では女性の立候補が多いですね。教育の段階から、男女関係なく、ひとりの人として認められるようになったからでしょう。良い傾向だなと思います。

「介護する人」を元気に

議員として、こどもの声、女性の声、介護の立場、これをしつかり政治で訴えていきたいです。一期目は少子化対策や学校教育、二期目は少子化問題やブーク・ライフ・バランスなどについてやらせていただきました。

「法律だから仕方ありません」役場だけでなく行政相談にも行きました。ここでも「法律が変わるしかありません」「議会でも法律は変わらないので知っている議員に頼んだら」と言われました。

普通の働く主婦だったので、議員に知り合いなんていません。減免などの相談の中で出会ったのが共産党でした。

「二度良いつころに来た」

選挙の手伝いをするようになり、「党に入りませんか」と誘われました。野津原の党支部は小さく、ある時、小さな子を負ぶって党費などを払いに行くところ、そこに党の県委員長が来ていて、「二度良いつころに来た」と「全ての行政区で議席に挑戦する」という方針を私も聞きました。

党に入って間もないし、勉強もしていないし、別世界の話だと思って人ごとのように聞いていました。支部のみんなと話し合っている、自分が立候補したんですが、当るはずがないのに当選してしまっただけです。

「今日、あたし、どこにあずからればいいん？」

一九八七年の六月から二ヶ月ほどの間に選挙活動。どこに行くのもこどもを連れて行きましたが、いつも近所の人かこどもを預かってくれました。「今日、あたしどこにあずからればいいん？」なんて下の子が言っていましたねえ。

政治の原点は子育て

町では共産党が立候補するなんて初めて

そして三期目の今期。超少子高齢社会に入って、介護は絶対大事ですよ。前々から思っていたことですが、二年前から在宅で母を介護するようになったのでよくわかるんです。介護する女性の皆様を守らなければならぬ。哀しい結末にならない為、「介護される人を守る」為には「介護する人を元気に」しなくてはならない。

「男性による介護は三人に一人」

高齢者虐待の原因は「介護する人」が疲れるからなんです。介護の問題を勉強する中で、「男性による介護は三人に一人」の割合だと知りました。これは、「女性を守る」という前に、「ひとりの人間」として介護する人のケアに力を入れなければならぬということなんですね。

現実には介護保険の対象に入らないものもあります。制度の狭間がいっぱいあるんです。それらを穴埋めしていかなければなりません。

母親の介護から学ぶ

母が元気で、在宅介護を継続していることで、高齢社会の中でどうやっていけばいいのかを見いだしていけると思っています。デイサービスに行きたくない日でも、「お母さんは年上で先輩だから、声をかけると皆さんが元気になるわよ」と言っていると「そうかしら」と言っていてデイサービスに行ってくれます。

高齢者でも誰でも、自分が期待される、何かができると感じると、力を発揮します。どんな世代になっても「あなたのお陰で」あなたがいるから」となったら、精神的に元気になるから。体力が付いてくればなお良い。人は人に触れると元気になるものです。

て、ましてや「女が…」と言われる時代です。

家にいるいろいろな人が押しかけてきました。その度に「一歩でも家に入ったら、駐在に電話しますよ。」とひるみませんでした。母は強し…ということでしょうか。

どんな時でも、こどもたちはしっかりといました。

離婚する時も、上の子二人から、「ママに話がある。パパと別れて私たちが頑張ろうよ」と。実は、こどもに言われて離婚の話し合いを始めたんです。こどもたちは今でもしっかりとしていますね。なんでも自分で決めて決めています。

「そんなの勝手にあんたたちで決めんでちゃんと親に相談せんといけんやろ」と言うと、「いつもママが自分で考えて決めなさいって言うていたでしょ」と言われます。信頼はしているけれど、何が起きるか分からない怖さがあります(笑)。いつも事後報告。

こどもが大人になってから言ってくれた話

公園に水がたまると、こどもがどろんこ遊びをしますよね。近所のお母さんたちはこどもを怒って、連れて帰っていたそうです。長女は自分たちもどろんこになって帰ったのに「おもしろかったやろ」「よう遊んできたな」と私から褒められたって言うんです。

自分ではそんなことあったかなあ…というくらいのことなんです。その時の話しを感動的に話してくれます。

長女は、雨が降ったら、こどもにどろんこ遊びをさせる為にわざわざ出て行くらしいですよ。

子育てについては、「旦那を褒めてね」と長女が言うほど、長女の夫は子育てに積極

皆さんの声を代弁する為に出ている

皆さんの相談を頂きます。相談する人にとつてはそれぞれに一大事。相談が解決すると、とても喜んで下さるので「やらせて頂いて良かったなあ」と感じるんです。それが元気の素、活力の素になっていきます。一票に政治を託すのが選挙。一票を投じた以上は、自分が票を入れた議員を監視した方が良いでしょう。議員は大事な税金を歳費としていただいていますから、それに値する仕事をしていますか…とみんなが監視すれば、政治はもっと良くなると思います。

女性議員であること

女性議員を見る皆さんの目は違います。「どんな仕事をしているんですか?」と聞かれることがあります。女性だと皆さん声をかけやすいんじゃないかな。買物をしている時に「議員さんでも買物するんですか?」なんて話しかけられることもあって、「お弁当も作りますよ」と答えています。(笑)気軽に話しかけていただけるといいうのは、女性議員ならではかなと思います。

大分市は女性議員がたった二人。ちょっと少ないですね。大変残念に思います。四十七万市民の中で二人というのはいかに少ない。立候補も二人。通ったのも二人。ただ、数だけの問題ではなく、「自分は何がしたい」という思いがないと、議員になっても難しいですね。若い人に頑張ってもらいたいです。

的に関わっているようです。

子育てに参加するかどうかは、それまでの環境、育てられ方が大事。意識を持つか持たないかでも違いますね。子育てを積極的にする男性が増えてきた理由は、こどもが少ないこと、お互いが働いていることもあるでしょうし、今の若い人は男女共同参画についてたくさん勉強しているのでは、意識を持っている」ということでしょうか。

「女々々」

町議になった時、「女のくせに」とどれだけ言われたか分かりません。市議に当選してすぐ、「あなた呼ばわり」された時には、「あなたはどなたですか?」と逆に聞き返しました。

町議の時は合併前の小さな町ですから、住民の顔が見えていました。市議になってきめが粗くなってしまうことを申し訳ないなあと思っています。規模の大きな市の議員になったことで、前と同じような活動をしようと思うと、どうしても時間が足りないんです。

男女共同参画については、早く、意識しなくて自然とできるようになったらいいなと思います。わざわざ意識しなければならぬということ、まだまだ意識が低いということですからね。

